

研究・調査報告書

報告書番号	担当
292	札幌医科大学医学部薬理学講座
題名 (原題/訳)	
<p>Joint analysis of the NACP-REP1 marker within the alpha synuclein gene concludes association with alcohol dependence. α シヌクレイン遺伝子内の NACP-REP1 マーカーの解析はアルコール依存との関連を結論づける</p>	
執筆者	
Bonsch D, Lederer T, Reulbach U, Hothorn T, Kornhuber J, Bleich S.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Hum Mol Genet. 14(7):967-971 (2005)	
キーワード	
アルコール依存症、 α シヌクレイン、関連遺伝子、NACP-REP1	
要 旨	
<p>様々な研究がアルコール依存の表現型と第4染色体との関連を示している。(アルコール依存との関連が想定される) 候補遺伝子の1つはαシヌクレインをコードしているNACP(非アミロイド性老人斑成分)である。近年、αシヌクレインのmRNAがアルコール依存患者の離脱期に増加していることが示された。この増加はアルコールに対する切望、特に強迫的な渴望と有意に関係している。これらの研究結果を基にして、この研究はNACP遺伝子内の2つの遺伝子多型の繰り返しについて分析した。本研究で我々は、健常対照者と比べて、アルコール依存症患者でNACP-REP1の繰り返しの有意に長い対立遺伝子を見出した(Krustak-Wallis検定、$\chi^2=99.5$; $df=3$, $P<0.001$)。さらに、これらの繰り返しの長さはαシヌクレインmRNA発現レベルと有意に相関していた($\chi^2=8.83$; $df=2$; $P<0.012$)。本研究の結果は、アルコール依存症のみならず一般的な中毒においても、その発症や症状継続の鍵となる要因である「渴望」を規定する遺伝子を検索するために有効であることを示している。</p>	